



## プロジェクトの健康診断 してみませんか？（2）

オブジェクトモデリングスペシャリスト

土屋 正人

Masato Tsuchiya

[m-tsuchi@sra.co.jp](mailto:m-tsuchi@sra.co.jp)

前号では「プロジェクト健康診断サービス」の「施術」ステップで行う「ふりかえり」をご紹介しました。今回は残りの「問診」「検診」「診断」「術後診断」をご紹介します。以下に、プロジェクト健康診断サービスのステップを再掲します。

1. 問診: ヒアリング
2. 検診: アセスメント
3. 診断: 診断表作成、施術提案
4. 施術: ふりかえりにより改善策検討、改善策実施
5. 術後診断: アセスメントによる施術効果診断

### ◆問診

人の健康診断同様、プロジェクト健康診断の最初のステップは「問診」から行います。プロジェクトメンバに対して、プロジェクトの目的、利害関係者、目標を確認し、うまくいっていること／いっていないことを聴き取ります。目的や利害関係者、目標など、改めて聞くまでもない事と思われるかもしれませんが、意外に共有できていないケースがあるものです。これらが共有ができていないと、**自分の作っているものは誰が何のために使うのか、何の役立つのか、わからないままにプロジェクトが進行**してしまいます。その結果、メンバのモチベーション低下を招く可能性があります。ビジョンやゴールの共有は、メンバのモチベーションを維持してプロジェクトを健康状態に保つための基本といえます。

「問診」はメンバ全員に対して行うことが理想ですが、

メンバが多いと、そうもいきません。その場合には、質問事項をアンケートにして配布・回収する方法を取ります。これは次の「検診」でも同様です。

### ◆検診

「検診」は「問診」に続けて行います。ここでは次の6つの視点に基づくヒアリングを行います。

- 反復開発とリスク管理
- 要求管理
- ソフトウェアアーキテクチャ
- ビジュアルモデリング
- テストと品質管理
- 構成管理と変更管理

これらは、実は反復型開発プロセスとして知られるRUP（ラショナル統一プロセス）の実装（RUPをプロジェクトに応じてカスタマイズする作業）を行う際に使うアセスメント項目で、RUPの旧6原則と呼ばれています（RUPの6原則はその後改定が行われたため、ここでは「旧」と称しています）。

「反復開発とリスク管理」という視点がありますが、ヒアリングする内容はプロジェクト管理に関するもので反復開発プロジェクトだけを対象としているわけではありません。ウォーターフォール開発の場合は質問事項をアレンジして行います。

「検診」は、6つの視点に基づくプラクティスの実践度合いを、「まったく行っていない」「少し行っている」「完全ではないが概ね行っている」「完全に行っている」の4段階で回答するクローズドクエスチョンで行うもので、視点毎に10～20程度の質問が用意されています。4つの段階に対して重み付けを行うことで数値化し、診断表を作成します。

図1は2つのチームからなるプロジェクトでの診断結果で、プロジェクト全体とチーム毎の平均スコアを示しています。スコアは3点が満点です。

適用前		凡例
プロジェクト全体	スコア	
反復開発とリスク管理	1.2	各項目は3点満点 <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:blue; border:1px solid black;"></span> 優秀 <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:green; border:1px solid black;"></span> 良好 <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:yellow; border:1px solid black;"></span> 注意が必要 <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:red; border:1px solid black;"></span> 問題あり
要求管理	2.1	
ソフトウェアアーキテクチャ	1.3	
ビジュアルモデリング	1.8	
テストと品質管理	2.1	
構成管理と変更管理	2.3	

適用前	
Aチーム	スコア
反復開発とリスク管理	1.4
要求管理	2.3
ソフトウェアアーキテクチャ	1.3
ビジュアルモデリング	1.8
テストと品質管理	2.6
構成管理と変更管理	2.3

適用前	
Bチーム	スコア
反復開発とリスク管理	0.4
要求管理	1.2
ソフトウェアアーキテクチャ	1.6
ビジュアルモデリング	1.8
テストと品質管理	2.1
構成管理と変更管理	2.3

図 1 診断表 (施術前)

## ◆ 診断

診断表を基に症状の根本原因を探って「診断」し、どの部分に手を打つ必要があるか、施術提案します。手を打つ必要がある項目が多数ある場合は、優先順位を検討して、段階的に改善する計画を立てます。一度に多くのことを計画すると、結局何一つ着手されないまま終わってしまうことが往々にしてあるからです。

提案が受け入れられると、施術を行います。その際、前号で紹介した「ふりかえり」を行ってメンバ全員でプロジェクトの状況を共有します。施術は数時間で済むものから数ヶ月かかるものまで、多岐にわたります。施術後、効果を判断するために「術後診断」を行います。

## ◆ 術後診断

「術後診断」は「検診」と同じです。同じメンバに同じ質問を行い、効果を検証します。図 2 は前出プロジェクト

の術後診断結果です(プロジェクト全体のみ)。施術前後の診断結果から、改善効果を定量的・定性的に把握することができます。比較のために施術前後を重ねたレーダーチャートを、図 3 に示します。

適用後	
プロジェクト全体	スコア
反復開発とリスク管理	1.6
要求管理	2.3
ソフトウェアアーキテクチャ	2.1
ビジュアルモデリング	2.5
テストと品質管理	2.2
構成管理と変更管理	2.3

図 2 診断表 (施術後)

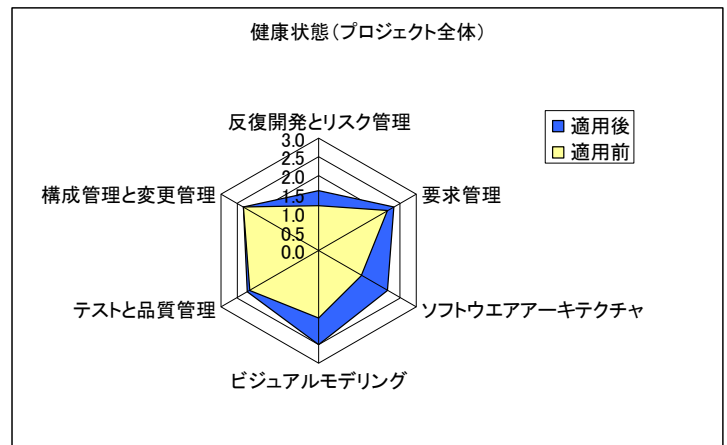


図 3 レーダーチャート (施術前・後)

改善効果が可視化されることで、改善を継続するモチベーションにつながります。

## ◆ もうひとつの CI

CI(Continuous Integration)とは継続的統合のことですが、改善も一度限りで終わってしまっただけでは意味がありませんし、もったいないことです。継続的改善が必要で、もうひとつの CI(Continuous Improvement)として注力することが必要でしょう。

夢を。



GSLetterNeo Vol. 49

2012年8月20日発行

発行者 ●株式会社 SRA 産業第1事業部

編集者 ●土屋正人、柳田雅子、野島勇

バックナンバーを公開しています ●<http://www.sra.co.jp/gsletter>

ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします ●[gsneo@sra.co.jp](mailto:gsneo@sra.co.jp)

株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋2-32-8

夢を。Yawaraka Innovation  
やわらかいのバージョン